

(2)横・矢示数は、頭部は短・超短頭で年令差は僅少。体幹部は9歳までは腰部・頭部・胸部の順に示数値は低くなるが、女子は15歳頃から胸部は厚みを増し、腰部は逆に扁平。

(3)胸囲100に対する比率は、頭囲は4歳97%、成人65%、頸付根囲は50%内外、胴囲は4~9歳まで90%、成人男子82%、女子73%程度、腰囲は年令差は少ないが、性差が認められた。

(4)計測値による形態の考察を試みた。

C-43 被服構成の基礎研究(第X報) —年齢別形態の比較—

京都女大家政 ○勝谷 弥生
土井サチヨ
山名 信子
高橋 純
薬師 敦子
甲斐 堯

1. 私達は、被服構成の基礎研究として、身体計測を行ない、成長にともなう体格の特徴を観察し、さらに衣服寸法についての考察を進めてきた。本報は、衣服の立体構成には基体となる人体の形態を把握する必要があると考え、頭部と体幹部のかたちについての考察を試みた。

2. 資料は1966~1968年に測定した4~29歳のうち、4・7・9・12・15・18・20・22~29歳の8 group、男子575名、女子577名、合計1152名である。研究項目は、胸囲-胴囲、腰囲-胴囲、頭長幅示数、胸部・胸部・腰部の各周径、横径・矢状径および各横・矢示数である。さらに胸囲に対する頭囲・頸付根囲・胴囲・腰囲の比率、各周径と横径・矢状径の相関、形態描画に必要な項目などの検討を行なった。

3. (1)胴部は男女とも9歳までずんどう、女子は加令とともに胴囲/胸囲は各年令間に危険率 $\alpha=1\%$ で減少の有意差が認められ、腰囲-胴囲も差が大となり、くびれが顕著となる。